

君たちはAI時代を どう生きるか

酒井邦嘉

生成AIはエイリアン

「対話型AI」や「チャットボット」と言う人、人に寄り添う「ドゥエモ」や「鉄腕アトム」を思い浮かべるかもしれない。しかし、チャットGPTなどに代表される現在の生成AIには、人間のよくなる心はおろか、心を理解するアルゴリズムすら搭載されていない。人と交信するだけのエイリアン(宇宙人)のよくなるものだ。

対話型AIにはマインドコントロールや洗脳にも悪用されるリスクがあり、何より思考力や創造性を衰退させる脅威になり得る。作家の東野圭吾さんは、「魔女と過ごした

七日間』の中で、「だからこそ大事なものは、……困難にぶち当たった時には、自分で考え、道を切り拓かねばならぬ」ということだ。頼るのはAIなんかじゃない。自分の頭だ」と書いた。君たちはAI時代に、自分を見失うことなく生きられるか。

真の「対話」とは何か

生成AIの文章は、もっともらしく見せかけた文字や音素の列にすぎない。質問者の発意意図や意味の解析は未だ表面的なものだ。それでも「対話」のように感じられるのは、足りない部分を人が補って都合よく解釈するからだ。いくらやりとりを重ねたところで、それは人間同士の対話にはほど遠い。

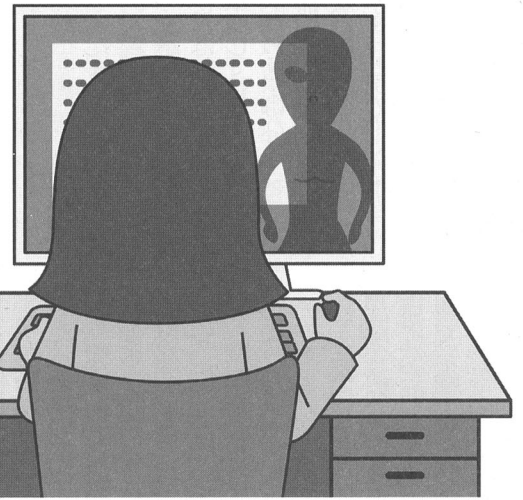
チャットボットが対話風に

仕立てられていることで、質問者は「正解」を求めるように誘導されてしまう。「適切な問いかけをすれば、チャットGPTはうまく答えてくれるだろう」と期待したなら、君はすでにその呪縛から逃れられない。

チャットボットは「イエスマン」としてデザインされて

いるから、同意を返してくるだけでも、自己肯定感が増幅しやすい。片思いのように妄想が膨らむこともあるだろう。「チャットGPTだけが自分を理解してくれている」と錯覚したら、他人の介入を受け付けなくなるかもしれない。

周りの人たちの真の「対



イラスト：成田輝昭(Suzuki Method No.216)

話」を決して軽んじてはならない。

「思考」とは何か

多くの人が誤解しているようにだが、AIや機械が「考える」ことなど決してない。考えるのはあくまで人がすることであり、「電卓が考えない」と同じように、機械が考えることはない。

生成AIによる文章作成は、「自らの思考力を欺く不正行為」だ。それはカンニングやドーピングと同じように、詐称の効果だけでなく、相応の副作用をもつ。

日本の各大学が生成AIの積極的活用を勧める一方で、ケンブリッジ大学は「生成AIの使用は剽窃とみなす」という宣言を早々に打ち出し

「創造性」とは何か

人間の知能の本質は、ただ新しい組み合わせを作ることではない。一定の枠を逸脱するもの、質の低いものを的確に見極めて、捨てることのできる。これが真の生成であり、創造性につながる。生成AIができることは、ある条件のもとに複数の情報を合成するだけだから、そもそも「生成」とは呼べない。

人のやらないことを考え、感性を磨き、そして的確な表現を身につけるには、血のにじむような研鑽と、気の遠くなるような時間が必要となる。しかし、「専門性を身につけていない人にもAIによって創作が可能になるだろう」といった安易な考えは、真のクリエイターの仕事を軽視するものだ。

生成AIに頼るあまり、自分の頭で考えること自体を拒否し面倒がる人が続出すれば、将来はどうなるか。効率を追求し、コスパやタイパを重視して生成AIを使った代償として、学問や芸術の後退に拍車がかかるのは必定だろう。

君たちはレポートに生成AIを使うか

レポートに生成AIの使用を禁止したとして、それでも使う人がいる以上、レポートは顔面通りに評価できなくなる。生成AIの使用をウェブ口の延長のように少しでも許容すれば、「何物まで使ってもよい」という線引きができ

ない以上、全面的な容認と委わらなくなる。

「生成AIを使う人がいるなら、自力でレポートを書いても無駄だ」と君は思うかもしれない。しかし「人は、人我は我」。その答も自分で見つけなくてはならない。受験が終わった今、大学生

になった今、一番大切なことは問題に正解できるかどうかではない。自分の頭で考え、自ら答を導き出すことを力をも身につけることだ。

君たちは、大学で何をしたいか。

(関連基礎科学/物理)